資料１

本日の主な論点

本研究会におけるこれまでの検討で、「大都市集中型」というよりは「全地域分散型」とも言うべき、「どんな場所であっても豊かな暮らしが可能な兵庫県」が目指すべき方向性として見えてきた。

来年度は、こうした方向性を念頭に置きつつ、将来像を具体的に描き出すため、切り口となるいくつかのテーマを設定し、今後30年で社会がどう変わっていくか、あるいは、社会をどう変えていきたいかを検討していく。

《メインの論点》　今後深掘りすべきテーマは何か

新ビジョンは、人口減少・高齢化の趨勢を考慮に入れつつも、「なりたい姿」、「理想とする未来」を思い切って描くものにしていきたい。

この視点を踏まえ、来年度、本研究会で検討を深めるべきテーマは何か。今回県民意識調査の分析結果をもとに、資料４のｐ.８（まとめ）に記した項目を深掘りすべきテーマとして整理したがどうか。他に適当なテーマはないか。

また、当該テーマに関する将来の見通しやあるべき姿についてどう考えるか。

《関連の論点１》　県民の価値観の変化の行方は

県民の価値観はどのように移り変わってきて、今後どのように変化していくか。変化の行方からイメージされる社会の姿はどのようなものか。「全地域分散型」に親和性のある価値観に変わっていくのか。あるいは、そのために、どのような価値観や考え方を伸ばしていく必要があるか。

《関連の論点２》　県民の「不安」解消は可能か

県民意識調査の分析結果から一つ大きな傾向として見えてきたのは、「生活には満足しているし、住んでいる地域にはこれからも住み続けたい」が、「将来の生活には不安を感じる」という県民の姿である。

「不満」はないが「不安」はある。この回答の傾向をどう受け止めるべきか。この状況は望ましくなく、地域の努力で少なからず解決できると考えるならば、私たちは何をすべきか。どのような社会を構想すべきか。